

博 修 士 会 会 報

Alumni Bulletin For K.U.Masters and Doctors 2011年7月1日発行

▲西研究所



ごあいさつ

関西大学博修士会会長 北嶋 弘一

関西大学博修士会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥にて各地ならびに各界においてご活躍のこととお慶び申し上げますとともに、平素より本会の運営に対しまして心温まるご助言をはじめ特別協力金のご寄付などご協力賜りまして厚く御礼申し上げます。

去る3月11日に発生しました東日本大震災は、日本が戦後経験した中で最悪かつ未曾有の災害となりました。これにより、多くの尊い人命が奪われ、甚大な被害が生じたことに心より哀悼の意とお見舞いを申し上げます。被災されました会員および皆様方におかれましては、一日も早く生活と安全が確保されますことを心からお祈り申し上げます。

博修士会は、125年に及ぶ永い歴史を誇る関西大学にあって、昭和27年(1952年)に設立されて59年の実績を持ち、修了生の総数も17,000名に迫ろうとする大所帯の校友会組織として成長を遂げております。

関西大学大学院は、今や法学、文学、経済学、商学、社会学、総合情報学、社会安全、東アジア文化、ガバナンス、理工学、外国語教育学、心理学、法務、会計、臨床心理の15研究科を擁する博士課程前期課程および同後期課程に専門職学位課程を有する日本有数の大学院に発展してきております。

去る3月22日に千里山キャンパスのBIGホール100で挙行されました学位授与式では、557名の修士と141名の専門職を合せた698名の修了生および38名の博士と50名の後期課程所定単位修得者を本会に新たに迎えるとともに、昨年9月17日に100周年記念会館で行われた学位授与

式では、15名の修士と24名の専門職の計39名の修了生および10名の博士を迎えました。また、昨年の秋学期および本年4月2日に行われました大学院入学式では、15研究科890名のフレッシュな院生を迎え、関西大学の学問・研究の中核として今後の母校のより一層の飛躍の一翼を担っていただくことを期待するものであります。

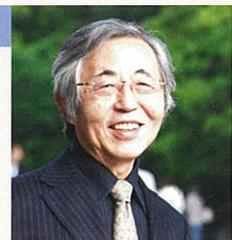
来る7月30日(土)には、昨年4月に開設された堺キャンパスの「人間健康学部」において平成23年度博修士会総会・学術講演会を開催いたします。昨年度の総会後の学術講演会では、社会安全学部長・大学院社会安全研究科長の河田恵昭教授をお招きして、私どもの日頃の生活で最も大切な安全・安心を学問の対象として教育・研究を行う意義、その成果を実社会で応用・実践して災害や事故などのリスクをなくす方法についての大変興味深いお話をお伺いすることができました。今年の学術講演会では、昨年4月に社会安全学部と同時に開設された人間健康学部の学部長である竹内洋教授をお招きして、「グローバルスタンダードからみた日本の大学」と題した講演をお願いすることになっております。皆様には、興味深いお話をお聞きいただくとともに堺キャンパス内の見学をして、会員相互の懇親を深めていただきたいと思います。

会員の皆様には、公私にわたり大変ご多忙のこととは存じますが、万障お繰り合わせの上、7月30日(土)開催の平成23年度関西大学博修士会総会・学術講演会ならびに懇親会にご出席下さいますようお願い申し上げます。

平成23年度 総会・講演会・懇親会のご案内

日時:平成23年7月30日(土) 13:30より受付開始
場所:関西大学 堺キャンパス
内容:第1部:総会
 14:00~15:00 SA201教室(2階)
 第2部:学術講演会
 15:00~16:00 SA201教室(2階)
 演題:「グローバルスタンダードからみた日本の大学」
 講師:関西大学人間健康学部長 竹内 洋 教授
 第3部:懇親会
 16:30~18:00 食堂にて
総会・懇親会参加者:会員+会員の紹介者に限定(事前申込制:郵便振替とする)
懇親会会費:会員と同伴者は 5,000円
 院生会員は無料
お願い:ご出席の方は、7月20日(水)までに、事前に郵便振替でお申し込み下さい。

■郵便振替 00900-2-68733
 関西大学博修士会
 通信欄に「総会費」
 などご記入下さい。
 ■問合せ先 博修士会総務部
 TEL
 06-6368-0810
 ■FAX 06-6388-8785
 総務部 中原 宛 竹内 洋教授
 ■e-mail nakahara@kansai-u.ac.jp
 ■はがき 〒564-8680 吹田市山手町3-3-35
 関西大学システム理工学部
 中原 気付 博修士会



人間健康学部長

竹内 洋教授

アクセス:
 南海電鉄高野線「浅香山」駅下車、徒歩1分。
 詳しくはHPをご確認ください。
<http://www.kansai-u.ac.jp/>

会員からのメッセージ

フード・デザート問題からみた地域「公共性」



大阪商業大学
西村多嘉子 (昭44 修法)

現代の「流通経済論」の領域で、今日的課題の一つとなっている「フード・デザート (Foods Deserts 食の砂漠)」問題、いわゆる「買い物弱者」問題に関心を持っている。経済産業省は、2009年11月から「地域生活インフラを支える流通業のあり方研究会」において「弱体化する生活インフラへの対応」策に関し検討を開始し、2010年5月に研究会報告書を公表した。地域生活インフラは、「ある地域での快適な生活を営むに際しての最低限の基盤を形成する要素」を指し、衣・食・住・医療・金融など諸領域の機能を内容としている。ここでは、この報告書を資料として、地域インフラの第一義的課題としての食糧確保の困難性の持つ意味にふれておきたい。

まず、こうした問題が最初に提起された英米での議論を取り上げてみよう。イギリスでは、1990年代初頭に食品（主に生鮮物）入手困難者の増加と、それを原因とする健康被害が顕著となり、アメリカでも同様の状況が増大していた。これらは、先進国における社会的排除 (Social Exclusion) を象徴する現象の一つと認識された。

つまり、都市中心部居住の貧困層の食生活が、限定的商品品揃え小売店やファストフード店に全面的に依存せざるを得ない現状を指していた。その傾向を生み出す要因は、1960年代前後から大型店やショッピングセンターの郊外出店が急増した結果、ダウンタウンの中小零細店の疲弊を生み出し地域小売商業構造が変容をとげたことによるものと理解されていた。こうした状況に対し、今世紀に入り、英米では大規模小売業者への出店規制や地域社会への行政支援が進められるようになった。

他方、日本においても、既に過疎地域と大都市

中心市街地および近郊ニュータウン（1960年代開発）のフード・デザート問題は、深刻の度合いを深めている。1990年代以降の「規制改革」のもとでの大店法廃止（2000年）、前後して「まちづくり三法（改正都市計画法など）」が都市計画の観点から施行された。さらに、「平成の大合併」のもとで被吸収町村が、その地域の核機能を喪失し、都市の郊外化も進んだ。また、現代日本の特徴である住民の高齢化、長期不況とデフレ化などの複合的要因により、多くの地域は大型店出店による大型店間や、大型店と中小零細小売店との競争が激化し、資本の自由裁量による大型店の撤退や、近隣型小売集積（商店街、市場や個人商店）の崩壊、あるいは衰退が加速度的に進行している。

「報告書」では、「地域社会とともに生きる流通」を副題としているものの、重点は「潜在需要の掘りおこしによる小売業のビジネス・チャンスととらえる」ことを強調し、その方策を列举する。しかしそれらは、1990年代以降の市場競争至上主義の導入によって、行政サービスを民間事業者に移転させる方式が法的にも推進されることを意味している。その過程で、フード・デザート問題の固有の要因分析を構造的かつ内在的に深めることなく、同様の方式がとられようとしている。それは、非市場的経済活動による調整メカニズムという社会的公共性の再制度化や再検討めきに、フード・デザート問題さえも、行政に代位しようとする民間資本の「市場創造」に置き換えようとしている。

地域社会の再構築のためには、住民・行政、さらに地域の基本単位に毛細管的機能を果たす小売商業によって構成される公共社会空間を作り出す課題が不可欠となっている。震災と原発災害という現実の前で、ますますこの研究課題はリアリティを深めていると思われる。

博士論文『近代中国救助外国籍 海難船的研究』を書き終えて



台湾中央研究院
人文社会科学研究中心副研究員
湯 熙勇 (平23博文)

縁というもの、本当にめぐり合わせだと思う。私は縁あって関西大学と出会った。

私は台湾で、17世紀から19世紀の東アジアにおける海難救助を中心とする研究をしていた。そして、関西大学の松浦章教授がまさにこのテーマの専門家であったことから、関西大学大学院への進学を決心したのである。在学中は、資料の探し方から日本語の学習まで、多岐にわたって松浦教授のご指導を受け、かつ大変お世話になったことを心より感謝申し上げたい。松浦先生の他に追随する者が現れ得ないほどの資料探しへの熱意と、それらを駆使して論文を書かれる迅速さ、およびその研究成果の精緻さに私は深い感銘を受けた。中国、台湾、そして日本の学術討論会や研究雑誌において、松浦教授の発表された論文は数知れず、東アジア海域の海洋史といえれば必ず松浦先生の著作を拝読しなければはじまらないほどである。

私自身の17世紀から19世紀の東アジア海域における漂流者の研究においては、関西大学の図書館および東西学術研究所が多くの価値ある資料を提供してくれた。とくに東西学術研究所所蔵の漂流者資料は卓越したものがあった。このため、関西大学での研究生生活は、プレッシャーがなかったとは言い難いものの、大変楽しんで研究を進められたと感じている。それらの日々が、私にとっては忘れられない、懐かしい記憶となっているのである。

と同時に、私の記憶の中には、やはり、ここで触れておきたい大切な旧友がいる。それは故石田浩教授である。石田教授の熱心なサポートがあったからこそ、私は関西大学を訪れることになった

のであった。

私は現在、引き続き東アジア海域における漂流者救助システム形成の意義について研究を進めている。加えて、海難漂流者救助システムの世界史における意義についても考察を深め、専門書として世に著したいと考えている。

「修士論文を書き終えて」



姜 軒
(社修平23社会システム)

2年間の大学院の研究生生活を通じ、どうにか無事修士論文を完成した。中国人留学生の私にとっては、修士論文の作成にあたって、日本で学んだことを母国でどのように活用するか、または、日本と母国を比較することによって何を得心か、ということは学術的意義があったと思う。

私の修士論文の研究テーマは、日本と母国である中国の経済のシステムや構造を比較することによって、中国の経済発展についての問題を検討することを目的とするものであった。具体的には、「市場化」、「産業化」、「国際化」という3つの視点から、「改革・開放」後の30年間の中国経済を歴史的に考察し、高度経済成長期の日本と比較することによって、経済システムの改革や産業構造の転換を深く理解したうえで、今後予想されるバブル崩壊などの経済不況をどのように避ければよいか、そして、中国経済の道はどのように進むべきかという経済問題に取り組んだ。

しかし、留学生にとっては、修士論文を作成するときに、迷うことや、難しいことがたくさんあった。まず、言語の問題である。専門用語などの言葉の壁をなくすために、大学院入学後の1年間に、中国語や英語の関連書籍を読み込み、日本語の専門文献と照らし合わせて理解を深め、予習、復習をかかさず行った。また、更に深い経済

の知識を身につけるため、ニュースや新聞などの時事問題の情報を収集し、それについて指導教授と意見交換を積極的に行った。

次に、研究に必要な資料とデータの収集である。日中両国の比較分析のため、中国経済に関する資料や経済データは非常に重要なものである。インターネットによって、データを収集するだけでなく、中国での現地調査も行って、地元の資料とデータを集め、分析を進めていった。さらに、これまでの知識の理解をもっと深めるために、研究内容と方法を指導教授とよく相談した。

その結果、日中両国の比較研究を通じ、中国はユニークな政府主導のもとで、市場メカニズムの働きと政府による経済政策に合わせる中国なりの道、いわゆる中国の特色を持った社会主義市場経

済システムによって、経済発展が大きく進んでいることがわかった。

こうした経験を通じて、継続して努力することの大切さを学んだ。就職した日系メガバンクで、社会人として大学院で学んだことを活用し、日中両国の経済およびビジネス業界における架け橋の役割を果たし、これによって、中国におけるさらなる経済発展に大きく貢献したいと考えている。

最後に、修士論文を完成し、そして社会学研究科の首席により総代として修士学位記を授与されたことは、大変光栄であり、私の人生の宝となるものと思う。これも指導教授の熱心なご指導、支えと励ましのおかげであると感じ、お世話になった指導教授の浅田正雄先生に、心から深く感謝している。

特別協力金納入者名簿 (五十音順、敬称略)

(平成 23 年 3 月 31 日現在)

| | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 阿部 昭子 | 天井 一夫 | 網本 浩幸 | 石川兼太郎 | 亥野 彊 | 井上 功 |
| 祝前 俊宏 | 江原 静 | 大前 英世 | 緒方 正則 | 岡本 哲和 | 木田 誠 |
| 北川 均 | 北嶋 弘一 | 北村 英子 | 熊田喜三男 | 後藤 安子 | 小松陽一郎 |
| 境 小夜子 | 阪本 龍三 | 笹倉 淳史 | 笹邊 将甫 | 澤 勲 | 神保 敏明 |
| 杉本 隆史 | 椿 信二 | 徳矢 典子 | 内藤 征一 | 中浦 茂雄 | 中原 住雄 |
| 西崎 義男 | 羽間 弘 | 日野上輝夫 | 平野 裕 | 藤井 収 | 藤井 昭三 |
| 藤井 英志 | 松本 始 | 宮下 文彬 | 明神 信夫 | 村上 悦也 | 山本 善章 |
| 横田 伸敬 | 吉田 秀夫 | 吉村 耕治 | | | |

博修士会からのお願い

特別協力金のご協力をいただきました会員の皆様に厚くお礼申し上げます。会の財政が逼迫しておりますので、本年度も引き続きご協力をお願いいたします。1口1,000円、できれば2口以上お願いいたします。また終身会費15,000円を未納の方は、納入をお願いいたします。

郵便振替 00900-2-68733 関西大学博修士会

この度の東日本大震災により
被災された皆様には心より
お見舞いを申し上げます。
皆様の安全と一日も早い復旧を
心よりお祈り申し上げます。

大学院ニュース

Graduate School News



ガバナンス研究科の設置

政策創造学部長・ガバナンス研究科長 **奥 和義**

ガバナンス研究科は、平成23年4月に開設されました。この研究科は、政策学を基盤とした教育・研究を行うことにより、公的な問題を発見して、その解決策としての政策をデザインし、さらにそれを実現していくことができる能力を持つ「高度公共人材」を育成することを目的としています。そのために、政治学・法学・行政学・経済学・経営学などを主たる柱とした上で、各分野間の連関を保った教育を行います。

ガバナンス研究科では、履修のためのガイドラインとして、「ローカル・ガバナンス・モデル」および「グローバル・ガバナンス・モデル」の2つの履修モデルを用意しています。「ローカル・ガバナンス・モデル」とは、地域における公的な問題の解決について学ぶための履修モデルです。この履修モデルの主たる対象は、より高度な専門能力を身につけたいと考えている地方自治体職員や地方議会議員及びその志望者、あるいは企業やNPO・NGOなどにおいて、特に地域に関わる公的な問題の解決に貢献したいと考えている人です。「グローバル・ガバナンス・モデル」とは、国際レベルにおける公的な問題の解決について学ぶための履修モデルです。このモデルの主たる対象は、企業やNPO・NGOなどにおいて、特に国際的な公的な問題の解決に貢献したいと考えている人及びその志望者、あるいは国際公務員の志望者です。

もちろん、これら2つのモデルはあくまで履修を行うための指針です。履修科目を工夫して、

「ローカル」と「グローバル」の両方にまたがるような新たなテーマについて研究することも可能になっています。例えば、国際機関と地方自治体の比較制度研究、あるいは国家間関係と中央・地方政府間関係の比較研究といった新しい問題・研究分野に取り組むことも可能です。

さて、これまでの多くの大学院では、特定の教員の下に大学院生がついて研究指導が行われる、というスタイルが取られてきました。これに対しガバナンス研究科では、複数の教員による研究指導を行います。修士論文（あるいは課題研究）については、特定の教員が中心となって指導が行われる予定ですが、その場合でも研究テーマと関係がある他の教員が共同で指導にあたります。

さらに、社会人を対象として、「社会人入学試験」および「社会人1年制コース入学試験」の2種類の入試を導入しています。社会人1年制コース入学試験で入学した場合には、業務や研究の実績、あるいは業務内容に関わるレポート作成や発表などによって、授業時間に代えることもでき、これまでの仕事での実績を適切に評価するように工夫しています。

高度公共人材が活躍できる場は、今後さらに広がっていくでしょう。ガバナンス研究科では、多様な進路を自ら切り拓いていくことができるような人材を育成したいと考えています。関西大学の特色ある学問研究を担う新組織に対しまして、みなさま方のご支援を切にお願い申し上げます。

総会議案書

〈第1号議案〉

平成22年度事業報告

平成22年4月1日から
平成23年3月31日まで

[1] 総会に関する事項

開催日時：平成22年7月31日（土）14：00～
開催場所：関西大学高槻ミュージズキャンパス
マルチミーティングルーム（2階）

来賓：田中義昭 校友会副会長
奥田恵造 校友会事務局課長

◇第1部 総会（議事）

- (1) 平成21年度事業報告
- (2) 平成21年度収支決算および監査報告
- (3) 平成22年度一般会計収支予算案

◇第2部 学術講演会：関西大学高槻ミュージズキャンパス マルチミーティングルーム（2階）

演題：『これからの防災・減災について
～過去の事例をまじえて！～』
講師：関西大学大学院社会安全研究科長 河田 恵昭 教授

◇第3部 懇親会

関西大学高槻ミュージズキャンパス
マルチミーティングルーム（2階）

[2] 役員会に関する事項

◇理事会

- ・平成22年4月3日（土）17：00～
新関西大学会館南棟4階：レストラン「チルコロ」（総会・学術講演会・会報発行計画・決算・予算の件、その他）

◇常任理事会

- ・平成23年2月28日（月）18：00～
関西大学100周年記念会館内「桃源」
（修士記授与式、入会案内・入会受付手続き・記念写真撮影に関する件、23年度総会・学術講演会・会報発行計画等）

◇その他

- (1) 平成22年4月4日（日）
 - ・2010スプリングフェスティバル（千里山キャンパス）に参加
- (2) 平成22年7月1日（木）
 - ・「博修士会会報」を編集・発行（広報部）
- (3) 平成22年6月12日（土）
 - ・校友会第95回定時代議員会（関西大学100周年記念会館）に出席（会長コーナ・渉外部）
- (4) 平成22年7月10日（土）
 - ・平成22年度校友会全国組織代表者会議（関西大学100周年記念会館）に出席（会長コーナ）
- (5) 平成22年10月17日（日）
 - ・平成22年度校友会総会（関西大学BIGホール100）に出席（全部署）
- (6) 平成23年1月15日（土）
 - ・校友会新年互礼会（新阪急ホテル）に出席（会長コーナ）
- (7) 平成23年3月22日（火）
 - ・学位記及び博士課程後期課程単位修得証書：授与式（関西大学BIGホール100）に出席（会長コーナ）
 - ・新会員の入会受付（総務部・渉外部・財務部）
 - ・記念写真撮影（渉外部・事業部）
- (8) 平成23年3月26日（土）
 - ・校友会第96回定時代議員会（関西大学100周年記念会館）に出席（会長コーナ・総務部）

〈第2号議案〉

平成22年度収支決算報告書

一般会計収支決算書

自 平成22年4月1日
至 平成23年3月31日

(収入の部)

(単位：円)

| 項目 | 予算額 | 実行額 | 差引差額 |
|-------------|-----------|-----------|---------|
| 経常収入 | 1,351,000 | 766,197 | 584,803 |
| 1. 会費収入 | 660,000 | 369,000 | 291,000 |
| ① 正会員入会金収入 | 60,000 | 45,000 | 15,000 |
| ② 院生会員入会金収入 | 600,000 | 324,000 | 276,000 |
| 2. 事業収入 | 280,000 | 125,000 | 155,000 |
| ① 総会会費収入 | 250,000 | 125,000 | 125,000 |
| ② 広告料収入 | 30,000 | 0 | 30,000 |
| 3. 雑収入等 | 411,000 | 272,197 | 138,803 |
| ① 雑収入 | 60,000 | 50,000 | 10,000 |
| ② 特別協力金収入 | 350,000 | 222,000 | 128,000 |
| ③ 受取利息 | 1,000 | 197 | 803 |
| 前期繰越金 | 1,744,973 | 1,744,973 | 0 |
| 合計 | 3,095,973 | 2,511,170 | 584,803 |

(支出の部)

(単位：円)

| 項目 | 予算額 | 実行額 | 差引差額 |
|--------------|-----------|-----------|---------|
| 経常支出 | 985,000 | 685,799 | 299,201 |
| 1. 一般管理費 | 245,000 | 164,620 | 80,380 |
| ① 通信費 | 100,000 | 33,065 | 66,935 |
| ② 事務用消耗品費 | 100,000 | 71,720 | 28,280 |
| ③ 支払手数料 | 15,000 | 9,835 | 5,165 |
| ④ 雑費 | 30,000 | 50,000 | △20,000 |
| 2. 会議費 | 300,000 | 144,388 | 155,612 |
| ① 総会費 | 250,000 | 116,788 | 133,212 |
| ② 諸会議費 | 50,000 | 27,600 | 22,400 |
| 3. 事業費 | 440,000 | 376,791 | 63,209 |
| ① 印刷費 | 350,000 | 335,871 | 14,129 |
| ② 修士記授与記念写真費 | 50,000 | 40,920 | 9,080 |
| ③ 記念品費 | 40,000 | 0 | 40,000 |
| 予備支出 | 30,000 | 0 | 30,000 |
| 予備費 | 30,000 | 0 | 30,000 |
| 当期支出合計 | 1,015,000 | 685,799 | 329,201 |
| 次期繰越金 | 2,080,973 | 1,825,371 | 255,602 |
| 合計 | 3,095,973 | 2,511,170 | 584,803 |

総会議案書

平成22年度特別会計収支決算書

奨学金特別基金

自 平成22年4月1日
至 平成23年3月31日

(単位：円)

| 収入の部 | 金額 | 支出の部 | 金額 |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 前期繰越金 | 1,203,680 | 次期繰越金 | 1,203,958 |
| 受取利息 | 278 | | |
| 合計 | 1,203,958 | 合計 | 1,203,958 |

名簿特別勘定

自 平成22年4月1日
至 平成23年3月31日

(単位：円)

| 収入の部 | 金額 | 支出の部 | 金額 |
|----------|---------|-------|---------|
| 前期繰越金 | 852,664 | 次期繰越金 | 852,862 |
| 一般会計より入金 | 0 | | |
| 受取利息 | 198 | | |
| 合計 | 852,862 | 合計 | 852,862 |

財産目録

平成23年3月31日現在

(資産の部) (単位：円)

| 科目 | 摘要 | 金額 |
|------|-----------------------|-----------|
| 普通預金 | 一般会計収支(りそな/難波) | 492,141 |
| 振替貯金 | 一般会計収支(ゆうちょ/大阪事務センター) | 1,036,040 |
| 通常貯金 | 一般会計収支(ゆうちょ/大阪事務センター) | 297,190 |
| 小計 | | 1,825,371 |
| 普通預金 | 特別会計 奨学金特別基金(りそな/難波) | 1,203,958 |
| 普通預金 | 特別会計 名簿特別勘定(りそな/難波) | 852,862 |
| 合計 | | 3,882,191 |

(負債・正味財産の部) (単位：円)

| 科目 | 摘要 | 金額 |
|------|---------|-----------|
| 正味財産 | 次期繰越金合計 | 3,882,191 |
| 合計 | | 3,882,191 |

監査報告書

関西大学博修士会
会長 北嶋 弘一殿

私たちは、平成22年4月1日から平成23年3月31日に至る一般会計収支決算書、奨学金特別基金および名簿特別勘定の特別会計収支決算書、ならびに財産目録について監査を実施致しました。

監査の結果、上記決算書類は適正なものであることを認めます。

平成23年5月12日

監事 澤 勲
監事 竿田 嗣夫
監事 水野 一郎

〈第3号議案〉

平成23年度一般会計収支予算書(案)

自 平成23年4月1日
至 平成24年3月31日

(収入の部)

(単位：円)

| 項目 | 予算額 | 摘要 |
|-------------|-----------|-------------------------|
| 経常収入 | 1,071,000 | |
| 1. 会費収入 | 540,000 | |
| ① 正会員入会金収入 | 60,000 | 正会員入会見込 15,000円×4人 |
| ② 院生会員入会金収入 | 480,000 | 院生会員入会見込 12,000円×40人 |
| 2. 事業収入 | 180,000 | |
| ① 総会会費収入 | 150,000 | 総会出席見込 5,000円×30人 |
| ② 広告料収入 | 30,000 | 広告掲載見込 10,000円×3件 |
| 3. 雑収入等 | 351,000 | |
| ① 雑収入 | 50,000 | 記念写真代他 |
| ② 特別協力金収入 | 300,000 | |
| ③ 受取利息 | 1,000 | 預金利息等 |
| 前期繰越金 | 1,825,371 | |
| 合計 | 2,896,371 | |

(支出の部)

(単位：円)

| 項目 | 予算額 | 摘要 |
|--------------|-----------|----------------------------|
| 経常支出 | 903,000 | |
| 1. 一般管理費 | 213,000 | |
| ① 通信費 | 50,000 | 会報・総会案内発送費 |
| ② 事務用消耗品費 | 100,000 | |
| ③ 支払手数料 | 13,000 | 振込・振替送金手数料 |
| ④ 雑費 | 50,000 | |
| 2. 会議費 | 250,000 | |
| ① 総会費 | 200,000 | 総会会場費・懇親会費 |
| ② 諸会議費 | 50,000 | |
| 3. 事業費 | 440,000 | |
| ① 印刷費 | 350,000 | 会報・総会案内等印刷費 |
| ② 修士記授与記念写真費 | 50,000 | |
| ③ 記念品費 | 40,000 | 修士記授与時贈呈記念品代 2,500円×16個 |
| 予備支出 | 30,000 | |
| 予備費 | 30,000 | |
| 当期支出合計 | 933,000 | |
| 次期繰越金 | 1,963,371 | |
| 合計 | 2,896,371 | |

* 予備費の支出は、役員会の承認を得るものとする。

〈第4号議案〉

その他

河田恵昭教授の 防災・減災学を聞く

平成22年度の博修士会総会が平成22年4月に開設された関西大学高槻ミュージックキャンパスで、田中義昭校友会副会長等を来賓に迎え、7月31日(土)13時半から開催された。

総会は黙とうと学歌斉唱を行った後、平成21年度事業報告と収支決算報告を承認し、平成22年度予算(案)も全員一致で承認した。また、役員改選を行い、北嶋弘一会長が再任された。

続く学術講演会では、関西大学大学院社会安全研究科長の河田恵昭教授から「これからの防災・減災について」と題して、過去の事例をまじえたご講演を頂いた。災害の危機管理は、孫子の兵法「彼を知り、己を知れば、百戦危うからず」にあり、災害のメカニズムを知り、己の弱い所を知ることが大切である。つまり、大雨の時は「山の斜面から遠い2階の部屋で寝る」のが減災に繋がるとのことであった。また、気候変動などにより、経験による常識が通用せず、知識によって新しい常識を普及しなければならぬと、社会安全学の意義を強調された。

講演後のキャンパス見学会に続いて開催された懇親会では、喜寿で関大博士号を取得された羽生和子氏(平20文博)から「江戸時代、漢方薬の歴史」刊行の話題提供があり、和やかな宴を過ごすことができた。最後に全員で逍遙歌を歌い、お開きとなった。

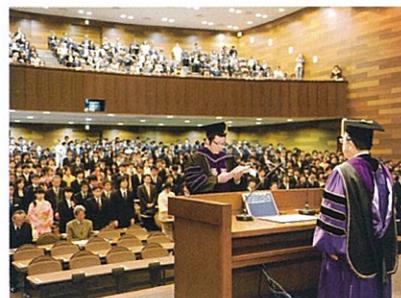
(博修士会 広報部)



河田恵昭教授の講演

698名の新修士の誕生、 新入生871名を迎える

平成22年度学位記授与式は3月22日(火)10時から千里山キャンパスBIGホール100で行われた。当日は、曇り空であったが、修了生、ご家族、来賓で満員であった。授与式は、東日本大震災の犠牲者への黙とうではじまった。前期課程修了者557名、専門職大学院141名、合計698名の修了者であった。楠見晴重学長は、まず、東日本大震災の犠牲者への哀悼の意を表した後、修了生に対して、人生の苦難にあたっては、大学院時代に培った挑戦する強い意志を持って臨むように述べた。21世紀の世界経済の変化の中でアジア地域に山積する諸問題を解決すべく、「海外に出て世界に挑戦する」ことを期待すると語った。異文化とのコミュニケーションを通して地球社会の一員として人類史の難局を乗り越える人材となってくれるように希望して祝辞を結んだ。法務研究科の伊東聡史君は、関西大学の自由闊達な学風と指導教官による懇切な指導に感謝を示し、近い将来、法曹の一員として社会に貢献することを誓って、答辞を結んだ。



平成22年度 学位記授与式

平成23年度の入学式は4月2日(土)10時から千里山中央体育館で行われた。本年度の入学者は、博士課程前期課程および修士課程695名、博士課程後期課程46名、専門職大学院130名、合計871名であった。今年度開設の東アジア文化研究科22名とガバナンス研究科14名も含まれている。楠見学長は、式辞の中で、新入生に対して、自ら展開している研究が世界的な視野に立って、どのような位置にあるか、どこが独創的なのか、常に世界を見据えて国際的に通用する成果をあげるように高い目標を掲げて研究に邁進することを希望していた。式後、新入生は、それぞれの研究科に分かれて気持ちも新たにガイダンス会場に向かった。

(博修士会 広報部)

お知らせ!

ホームページも見て下さい!

<http://www2.ocn.ne.jp/~kandaimd/>

2011年号

発行人 北嶋 弘一 / 編集人 北川 勝彦

発行所 関西大学博修士会

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 関西大学大学院内